

『読書を身近に』～3つの段階からの読書推進プロジェクト』

1 学校の概要

(1) 所在地 福島県福島市森合字小松原1

(2) 学級数・生徒数（令和6年5月1日現在）

22学級（全日制18・定時制4）生徒数683名（全日制658・定時制25）

(3) 学校図書館の蔵書数（令和6年5月1日現在）

NDC	冊数	%	NDC	冊数	%	NDC	冊数	%
総記	953	3.8%	自然科学	2,042	8.1%	語学	626	2.5%
哲学	685	2.7%	工学	4,734	18.8%	文学	6,800	27.0%
歴史	1,630	6.5%	産業	490	1.9%			
社会科学	2,040	8.1%	芸術	5,174	20.6%	計	25,174	100%

2 3つの段階における読書活動の推進

本校においては、就職する生徒も多いという特徴を踏まえすべての生徒が読書習慣をつけられるような図書館活動を目指している。具体的には①生徒の興味関心にあった選書の実施、②国語などの授業と連携した読書推進活動、③図書委員による図書室を利用した各種イベントの実施、そしてその他の様々な取組みである。以下、①～③の三点についてまとめたい。

① 生徒の興味関心にあった選書の実施

本校においては図書委員会の希望者による選書実習を実施している。なお、コロナ禍においては校外での活動が困難なためインターネットを利用したオンライン選書実習を実施した（写真1）。

2022年度からは再び、仙台や郡山の大書店で選書実習を再開することができた（写真2）。

選書実習には5名程度の生徒が参加し、事前学習においてその意義と手順について説明した。特

に重視したのは今の本校生にどのような本が必要であるかという視点である。まずは生徒が興味関心を持って読める本、そしてこれから就職するという生徒にとって必要であるという本を選書するという目標を持って選書実習に臨むことができた。

選書実習後、購入した本は図書館内に特別なイベントブースを設け生徒に積極的に貸出を行った。概ね好評であり、貸出も増加し生徒の読書の幅を広めることに成功したと思われる。



写真1



写真2

② 国語などの授業と連携した読書推進活動

国語の授業において、図書館の本を利用した図書カード作成を国語科と連携して行った。本の内容をカード化して興味関心を深めるといったものである（写真3）。

普段は手にしないような本にチャレンジした生徒もおり、生徒それぞれの工夫や思いが感じられた。



写真3

③ 図書委員による図書室を利用した各種イベント

終業式などの日の放課後に、図書館を身近に感じてもらうためのイベントを実施した（写真4）。図書委員を中心にして、レクリエーションなどを行い、図書館を身近な場所に感じてもらうようなイベントを作成した。

直接読書活動との関連性は薄いところがあるが、図書館の多面性を知ってもらうという意味でも今後も続けていきたい行事である。



写真4

④ その他の様々な取り組み

- ・リクエストへの積極的な対応
- ・毎月の館内展示(時事・授業関連等)や図書館入口外でのおすすめ本の展示

- ・ 図書委員会企画イベントの開催
- ・ 各科に関わる本をまとめて配架
- ・ 資格・検定取得を支援するための資料コーナーの設置
- ・ その他コーナーの設置
- ・ 雑誌バックナンバーの書架への配架
- ・ 検索性を考慮した書誌作成
- ・ 工業や進路に関わる新聞記事等の掲示
- ・ リーディングスリットの設置：読書がしやすいよう、読書活動の補助ツールを設置し貸出
- ・ 入館者表彰：入館者 1 万人目およびその前後者を表彰
- ・ 新着図書の迅速な配架
- ・ 図書の紹介文を複数冊分載せた新着図書ガイドの発行
- ・ 授業での図書館利用の呼びかけ
- ・ 専門的な図書について、各科から随時リクエスト、学習活動に適した図書の整備
- ・ リクエストや課題研究用の本など、本校図書館で対応しきれない分について、県立図書館や市立図書館から資料を借り受けて利用者に提供

3 まとめとして

読書活動の推進のため主に3つの取組みを行った。利用者数は年間のべ1万人を越してはいるが、より一層、生徒に身近な読書習慣の確立に向け様々な取組みを考えていきたい。